

多様性の時代

岡山市は全ての人々が生きやすいまちか

岡山大学大学院保健学研究科教授 中塚 幹也



中塚 幹也氏
岡山大学医学部卒。医学博士。岡山大学ジェンダークリニック医師。GID（性同一性障害）学会理事長。岡山市男女共同参画専門委員会委員。倉敷市出身、1961年生。「封じ込められた子ども、その心を聴く：性同一性障害の生徒に向き合う」など著書多数。

「あなたの自治体はLGBTフレンドリーな社会であると思うか？」私たちの実施した自治体に所属する公務員への調査では「そう思う」「やや思う」との回答を合わせても約1割にとどまっていた。しかし、「だからこそ、問題意識を持ち、改善に向けた政策が必要だ」との意見も見られた。

❁ さんかく条例の改正

2020年7月、岡山市は、同性カップルなどを想定した「パートナーシップ宣誓制度」を開始、2021年12月1日までに12組が利用している。その前提として2019年には「男女共同参画社会の形成の促進に関する条例（さんかく条例）」の改正がなされた。大きな改正点は「性の多様性の尊重（ジェンダー・ダイバーシティ：Gender Diversity）」の視点を盛り込んだことである。条文の中の「男女が(平等)」と表現していた部分を1つ1つ「性別等にかかわらず(平等)」と変更していった。また、「性自認(心の性)」や「性的指向(好きになる性)」についても言及した。

条例改正の議論の中で、否定的な意見として「『性的マイノリティの問題』を市民全体に広げるのは早すぎる」というものがあった。しかし、「市民の性別、年齢、人種、障がいの有無などは多様、多様なのが市民、その市民の問題を解決するのに早過ぎることはない」「この条例改正が

啓発の契機になる」などの肯定的な意見が打ち消してくれることになった。

❁ 多様性と調和

2021年の東京オリンピックでは、女子重量挙げにトランスジェンダーの女性であるローレル・ハバード選手が出場した。「トランス女性」の女子選手としての参加は五輪史上初である。男性として生まれ、20代には男子選手として活躍していたが、性自認は女性であり、30代で「性同一性障害/性別不合」の診断を受けて女性ホルモン治療を開始、性別適合手術も受けている。ニュージーランドの制度に沿って公的にも「女性」となった後、2013年に女子選手へと転向した。

「重量挙げ」では、その競技の特性上、体格や筋力の強さが記録に大きく影響すると考えられる。女性ホルモンなどにより筋力が低下したとしても、平均的には男性の方が体格は大きい「不公平である」と訴える女性選手がいるのも確かである。しかし、人種によっても平均的な身長や体重、筋肉量や筋力は異なる。また、経済的に恵まれない国であれば、栄養状態が体格に影響するかもしれないし、食べ物を得るための労働でトレーニングの時間を削らなければならないかもしれない。多様性を否定しては、多くの人々を排除したオリンピックになってしまう。このた

め、オリンピックは「多様性と調和」を大きなテーマとし、その実現を求めており、「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩する」としている。勝敗を競うオリンピックでさえ、多様性を認めようとしているのである。

✿ ジェンダー・ギャップ指数

岡山市のさんかく条例改正の議論の中で出てきた、もう1つの否定的意見は「女性差別をなくす方が先決」というものであった。ジェンダー・ギャップ指数（経済、教育、健康、政治の4分野14項目で男女比率などを分析して点数化）が156カ国中120位の「現在の」日本においては女性の登用推進は必要な措置である。しかし、女性の権利を保障することと性的マイノリティの人々の権利を保障することは対立することではない。岡山市、そして日本が目指すのは「女性が輝く」か「男女平等」か、それとも「性別等にかかわらず平等」か。

✿ 性的マイノリティを知らない大人たち

小学生たちに「個『性』ってなんだろう？」という授業をした。いろいろな多様性の中で「性の多様性」についても話したし質問もした。小学生たちは「性別にかかわりな

く」素直にいろいろ話してくれた。子どもたちも気づくことが多かったと思われるし、私や学校の先生方が気づかされることも多かった。残念ながら、一定年齢以上の人々の多くは、「性的マイノリティの人々はいないもの」とした学校で「性の多様性」についての情報に触れないまま大人になってしまった。今ここで立ち止まって、適切な情報に触れ考える時期に来ていると思う。

LGBT

LGBTとは、性的指向（好きになる性）の視点での少数派であるレズビアン（L）、ゲイ（G）、バイセクシュアル（B）と、性自認（心の性）の視点での少数派であるトランスジェンダー（T）の頭文字を並べたもの。LGBTQ（クエスチョニング、クィアなどのQを加える）、LGBTQ+（すべての性的マイノリティを含むニュアンス）という言葉も使われる。トランスジェンダーのうちホルモン療法や手術療法を希望して医療施設を受診した場合の診断名が「性同一性障害/性別不合」である。

注：本文章の詳細についてお読みいただく場合は、Yahoo オーサー中塚研究室「生殖とジェンダーの今」<https://news.yahoo.co.jp/byline/mikiyanakatsuka> をご参照いただきたい。

岡山市パートナーシップ宣誓制度を知っていますか？

性的マイノリティのカップルの希望により、パートナーシップ関係であると宣誓を行い、市は、「パートナーシップ宣誓書受領証」と「パートナーシップ宣誓書受領証明カード」を交付します。

受領証の提示により、市営住宅の入居申込をはじめとする行政サービスや一部携帯電話会社の家族割の適用などの民間サービス（事業者にお問い合わせください）を受けることが可能となります。

岡山市パートナーシップ宣誓制度

検索

★ パートナーシップ宣誓書受領証明カード

岡山市パートナーシップの宣誓の取扱いに関する要綱の規定に基づき、お二人からパートナーシップ宣誓書を受領したことを証します。

〇〇 〇〇 様 △△ △△ 様
第〇号 令和〇年〇月〇日
岡山市長 公印